

東村山 高等学校 令和8年度（3年用） 教科

家庭 科目 フードデザイン

教科： 家庭

科目： フードデザイン

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 6 組

教科担当： （選択： 川上 璃子）

使用教科書： （実教出版 フードデザイン）

教科 家庭

の目標： 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。

【知識及び技能】

・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解する。
・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関連する技術を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】

・食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】

・食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付ける。

科目 フードデザイン

の目標：

- (1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活も総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】				
・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解している。		・食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。		・食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。				
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準		知	思	態	配当 時数	
1 学期	1 節 調理とおいしさ おいしさと関わる要因について知り、実験や実習を通して食に対する興味を深められるようにする。	何のために調理するのかを理解する。 おいしさに関わる条件を知り、調理にいかせるようにする。	調理の目的について、安全性、栄養、嗜好、心身の健康などの面から関心を持ち、学ぼうとする意欲がみられる。	○	○		10	
	2 節 調理操作 調理器具や調理操作について知り、多様な調理を行うことができるようになる。	計量の方法、食品の切り方、調理方法の基礎、加熱調理器具ごとの特徴などについて、具体的な知識と技術を身に付ける。 調味に関する基本的な知識を習得する。	食物のおいしさは、味・におい・色・テクスチャー・温度などと関わっており、調味、加熱やその他の調理操作が料理のできあがりを与える影響について思考を深めることができる。 調味、加熱やその他の調理操作が、料理のできあがり大きく影響することを実験を通して観察し、考察することができる。					
	4 節 食品の衛生と安全 食中毒や衛生についての知識を深め、衛生と安全に配慮した調理ができるようになる。	食中毒の種類、食中毒と食品衛生について学ぶ。 衛生と安全に配慮した調理をするためにはどうしたらよいかを考える。 食品添加物の定義や種類について理解する。	食品の衛生と安全に関する基本的な知識を身に付けている。 調理を前提として、よりよい食品を見きわめ、購入することができる。 食品を衛生的に取り扱うことができる。	○	○		4	
	調理実習 基本的な調理操作を学び、班員と協力しながら実習をすることができる。	基本的な「和食」、「洋食」、「中華」料理を作る。	班員と協力し、時間内に終わらせることができる。 調理手順を理解し、スムーズに実習を行うためにはどのように行動したらよいかを考えている。		○	○	14	
定期考査			○	○				
2 学期	1 節 料理様式と献立 日本料理、西洋料理、中国料理のテーブルマナーを学び、自国と他国の文化についての興味・関心を深められるようになる。	日本料理、西洋料理、中国料理等それぞれの様式に応じた食卓構成と作法について理解する。 日本料理の献立の違いを知り、手順やサービス、マナーについて理解する。	日本料理、西洋料理、中国料理など代表的な料理様式について、それぞれの特徴に関心を持つようとしている。	○	○		6	
	2 節 テーブルコーディネート 和風、洋風、中国風のテーブルコーディネートについて知り、実生活で活かせるようになる。	西洋料理の形式による違いを知り、手順やサービス、マナーについて理解する。 地域によって異なる中国料理の特徴を知り、サービスやマナーについて理解する。 和風・洋風・中国風ごとのテーブルコーディネートの特徴を知り、状況に応じたコーディネートについて考えさせたり、実際にコーディネートを実践する。	食事の目的などに応じた食卓を演出しようとする意欲・関心が感じられる。 食器・盛りつけ・テーブルクロス・照明などについて、目的に応じた適切な選択ができる。 様式別の食卓構成や食卓作法、供応に伴うマナーを身に付けることができる。 食器・盛りつけ・テーブルクロス・照明などについて適切な取り扱いができる。 目的に応じたテーブルコーディネートができる。					
	調理実習 基本的な調理操作や応用的な調理操作を学び、班員と協力しながら実習をすることができる。	基本的な「和食」、「洋食」、「中華」料理、「製菓」など、応用的な要素を持った調理をする。	班員と協力し、時間内に終わらせることができる。 調理手順を理解し、スムーズに実習を行うためにはどのように行動したらよいかを考えている。		○	○	20	
	定期考査			○	○			
3 学期	1 節 献立作成 場面や状況に応じた献立作成をすることができる。	栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、日常食、行事食など用途に適した献立を作成する。 和風、洋風、中国風等の料理を引き立てるようなテーブルセッティングをする。	食事のテーマにふさわしい献立や食卓の整え方、周囲の環境づくりを行おうとしている。 食事のテーマに応じた献立作成、食品材料の選択と調理など、一連の流れを計画し実践ができる。	○	○	○	16	
	調理実習 基本的な調理操作を学び、班員と協力しながら実習をすることができる。	決められた設定の中で、献立作成、調理をする。	班員と協力し、時間内に終わらせることができる。 調理手順を理解し、スムーズに実習を行うためにはどのように行動したらよいかを考えている。					
	定期考査			○	○			
							合計	70

東村山 高等学校 令和8年度（3年用） 教科 家庭 科目 保育基礎

教科： 家庭 科目： 保育基礎

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（選択： 蜂屋 康子）

使用教科書：（教育図書 保育基礎）

教科 家庭

の目標： 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。

【知識及び技能】 ・子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身につけている。

・子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につけている。

【思考力、判断力、表現力等】 ・子どもを取り巻く課題を見つけ、保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫、表現をする力を身につけている。

【学びに向かう力、人間性等】 ・子どもの発達や保育にかかわる職業について関心をもち、地域の保育や子育て支援を通じて子どもの健やかな発達に寄与しようとする意欲的な態度を身につけている。

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次々と育み養成することを旨とする。

科目 保育基礎

の目標： 子どもの健やかな発達を目指して学び、保育に主体的かつ臨動的に取り組む態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身につけている。	・子どもを取り巻く課題を見つけ、保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫、表現をする力を身につけている。	・子どもの発達や保育にかかわる職業について関心をもち、地域の保育や子育て支援を通じて子どもの健やかな発達に寄与しようとする意欲的な態度を身につけている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 子どもにかかわる職業は、どのようなものがあるか。また、その意義を知る。 自分が将来どのような形で子どもにかかわりたいか考える。 	子どもにかかわる職業を知る	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな職業が子どもで保育に必要不可欠な役割を担っていることについて、子どもとの健やかな発達に寄与していることを理解している。 自分の将来における子どもへのかわりについて、職業や、かわり方等を具体的に検討している。 子どもにかかわる職業について関心をもち、自分が希望する職業に就くために必要なことを調べたり、情報収集、整理しようとしている。 子どもの人形形成における保育の重要性を理解している。 保育における保護者や保育者の役割を理解している。 子どもの保育の特徴や、保育者に求められる姿勢などについて要点をまとめることができる。 保育の特徴について、自分自身が親や保育者になることを考えるなど、自分の人生観と結びつけて考えようという姿勢が見られる。 家庭での子育てで課題や課題、園の子ども支援の内容などについて理解している。 保育や幼稚園、認定こども園における保育・教育の特徴を理解している。 現在の子育てで家庭が抱えていることについて、子育てで抱える変化など、関心を持ちながら具体的に考察することができる。 身近な保育・教育施設について関心をもち、ホームページからその特色を調べたり自ら情報を収集しようとしている。 	●	●	●	14
	<ul style="list-style-type: none"> 保育には、子どもの生涯の人格形成の基礎を築く重要な意義があることを理解する。 保育のあるべき姿とはどのようなものか考える。 家庭及び幼稚園、保育所や認定こども園について、それぞれの養育・保育環境の役割や役割を理解する。 現代の子どもで子育てで家庭を取り巻く環境の問題、多様な保育ニーズに関する課題を知り、子どもの健やかな発達のための適切な保育環境について考える。 子どもの成長には、子どもを受け止め理解してくれる大人の存在が不可欠であることを知る。 保育所保育指針や幼稚園教育要綱、幼保連携型認定こども園教育・保育要綱について調べ、子どもの発達における保育・教育の目的や目標について理解する。 発達過程の理解と、段階に応じた保育の方法を理解する。 子どもの健やかな発達のために、保育者として適切な保育環境をどのように創出工夫していくべきか考える。 子どもの心身の状態や発達に応じた保育の方法とその関係について課題を見出し、その解決に向けて考察し、工夫する。 	保育の意義	<ul style="list-style-type: none"> 保育の目標と、保育者から子どもへのたらしめ方の重要性を理解している。 月齢・年齢に応じた保育者の適切なかわり方を理解している。 保育者としてどのようなことが大切か、自分の考えをもち、話し合うことができる。 月齢・年齢に応じた適切なかわり方を、具体的な声かけなどの観察から見られる。 家庭での養育の課題を考察しながら、子どもの心身の安定を図るために、保育者としての月齢・年齢に応じた適切なかわり方を具体的に考え、意見をまとめたり発表したりすることができる。 自分が保育者になることを想像しながら、子どもにとって適切な保育を行うためにかわり方を工夫するなど、積極的に取り組む姿勢が見られる。 	●	●	●	
	<ul style="list-style-type: none"> ライフステージにおける乳幼児期の位置づけを確認し、生涯発達のために乳幼児期が大切であることを理解する。 発達には順序性・連続性・方向性・相互性という一定の共通性がある一方で、個人差が大きいことを理解する。 子どもが主体的に環境にはたらかせ、発達していくために、保育者などが応答的にかわることが大切であることを理解する。 乳幼児期の養育について、各部役割の目安や評価面を知る。また、大人などと比較して、乳幼児期の養育の特性を理解する。 乳幼児期の養育の特徴について理解する。 乳児期・幼児期における感覚・運動機能、情緒、認知機能、言語、社会的発達の特性について理解する。 子どもと大人ではものとならえ方に違いがあることを知る。 愛着関係の形成過程を学び、その重要性を理解する。 安全基地としての親の重要性について理解する。また、家族、きょうだい、友だちなどの対人関係と社会的発達について考える。 乳幼児期の子どもが健全な心身の発達について課題を見出し、その解決に向けて考察し、工夫する。 子どもの発達に個人差に配慮しながら、心身の発達を促すために保育者としてどのように関与するべきか考える。 	子どもの発達特性	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達の特長性・個別性について理解している。 子どもの発達と、身体や心身の発達の環境が相互に関連して発達していくことを理解している。 子どもが主体的に発達するために、保育の環境が重要であることを理解している。 母子健康手帳などの資料を見ながら、発達の各側面が相互に関連し合っていることを読み取り、具体的に考察することができる。 	●	●	●	
	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児期の養育について、各部役割の目安や評価面を知る。また、大人などと比較して、乳幼児期の養育の特性を理解する。 乳幼児期の養育の特徴について理解する。 乳児期・幼児期における感覚・運動機能、情緒、認知機能、言語、社会的発達の特性について理解する。 子どもと大人ではものとならえ方に違いがあることを知る。 愛着関係の形成過程を学び、その重要性を理解する。 安全基地としての親の重要性について理解する。また、家族、きょうだい、友だちなどの対人関係と社会的発達について考える。 乳幼児期の子どもが健全な心身の発達について課題を見出し、その解決に向けて考察し、工夫する。 子どもの発達に個人差に配慮しながら、心身の発達を促すために保育者としてどのように関与するべきか考える。 保育所保育指針などを取り上げながら養育の必要性・目的を理解し、発達段階に応じた適切な養育の方法を知る。 子どもを安全に養育するためのポイントや、注意点について知る。 基本的な生活習慣と社会的な生活習慣の違いを理解し、その具体的な内容について知る。 生活習慣を題材にした絵本などから、生活習慣の習得を促すにはどのような工夫が必要かを考察する。 	子どもの養育と発達	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の養育や生理的特徴が大人とは大きく異なることを理解している。 発達の各側面における過程を理解している。 発達の過程で子どもができるようになることを、月齢や年齢に応じて挙げることができる。 情緒や社会性といくつかの発達に関連して、親や保育者との愛着形成が重要であることを理解している。 地域や保育施設の子どものふれあいや、保護者へのインタビューなどを通して、子どもの発達や保育者のかわり方の特徴を具体的にまとめたり、発表したりすることができる。 月齢・年齢ごとの子どもの心身の発達の様子を理解した上で、子どもが興味・関心した適切なかわり方を考察し、具体的に提案することができる。 自分が保育者になることを想像しながら、子どもが心身の発達を促し、子どもの発達の振り返りに活かせるようなかわり方を、主体的に提案しようとしている。 	●	●	●	
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが健康を守るための保育者の役割を理解し、健康状態の観察方法を学ぶ。 子ども特有の病気について知り、予防接種の大切さや理解する。また、感染症に罹患しやすいために対処するための知識を得る。 子どもの健康を守るために、社会がどのようなサポートを行っているかを知る。 住まいに潜む危険について理解し、家庭や保育施設など身近な場所の危険についても考えられることができる。 発達障がいや医療的ケアをはじめとする、子どもの健康課題について、SDGsと関連させながら理解する。子どもの健康と安全について課題を見出し、その解決に向けて考察し、工夫する。 保育施設で起こりうる危険について理解し、保育者として子どもの健康・安全を守るために具体的などのような対策を取るべきか考える。 	子どもの健康と安全	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの健康が発達や生活環境など多様な要因に影響を受けやすく、健康を守るための保育者の役割が重要であることを理解している。 子どもの病気の特徴を知り、適切な看護の方法を理解している。 予防接種をはじめとする子どもの病気の予防方法について理解している。 家庭など、子どもの生活のなかで起こりうる事故の特徴を知り、適切な応急処置の方法を理解している。 子どもが自衛を体験する活動などを通して、家庭や保育施設における安全性についての課題を見出し、子どもを危険から守るための具体的な方法を考察することができる。 SDGsの目標の観点から、現代の子どもの健康課題について考察し、自分何ができるかなど、考えをまとめたり発表したりすることができる。 	●	●	●	16
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが保護・養育される権利をもち、尊重されるべき存在であると認識されるまでの歴史を知る。 日本の児童福祉の変遷と、社会環境や法制度のしくみについて理解する。 子どもの福祉の理念について理解し、歴史的な経緯を知る。 子どもの福祉について課題を見出し、その解決に向けて考察し、工夫する。 障がいのある若者や虐待、困難の多いなど、多様な事情・背景をもつ家庭で子どもが十分な保育サービスを受けるために必要な施策を考える。 子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康と豊かな生活の実現のために果たす役割や意義を理解する。 近年の少子化、高齢化の影響で、子どもや子ども文化を取り巻く環境に変化が起きていることを知り、それに伴う課題を理解する。 	保育に見る児童観	<ul style="list-style-type: none"> 世界・日本の児童観や子どもの福祉の変遷の歴史が、現代のさまざまな法制度や制度に反映されていることを理解している。 児童観の理念を考察し、法制度や福祉にかかわる役割について理解している。 児童虐待や貧困など、具体的な問題を通じて子どもの福祉の必要性を考察し、自分の考えをまとめたり発表したりすることができる。 	●	●	●	
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの福祉について課題を見出し、その解決に向けて考察し、工夫する。 障がいのある若者や虐待、困難の多いなど、多様な事情・背景をもつ家庭で子どもが十分な保育サービスを受けるために必要な施策を考える。 子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康と豊かな生活の実現のために果たす役割や意義を理解する。 近年の少子化、高齢化の影響で、子どもや子ども文化を取り巻く環境に変化が起きていることを知り、それに伴う課題を理解する。 	子どもの健康と生活	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣を題材にした絵本を選ぶ活動などを通じ、生活習慣の習得を促すために、保育者としての具体的なかわり方を考察し、工夫することができる。 	○	○	○	
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの健康を守るための保育者の役割を理解し、健康状態の観察方法を学ぶ。 子ども特有の病気について知り、予防接種の大切さや理解する。また、感染症に罹患しやすいために対処するための知識を得る。 子どもの健康を守るために、社会がどのようなサポートを行っているかを知る。 住まいに潜む危険について理解し、家庭や保育施設など身近な場所の危険についても考えられることができる。 発達障がいや医療的ケアをはじめとする、子どもの健康課題について、SDGsと関連させながら理解する。子どもの健康と安全について課題を見出し、その解決に向けて考察し、工夫する。 保育施設で起こりうる危険について理解し、保育者として子どもの健康・安全を守るために具体的などのような対策を取るべきか考える。 	子どもの健康と安全	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの健康が発達や生活環境など多様な要因に影響を受けやすく、健康を守るための保育者の役割が重要であることを理解している。 子どもの病気の特徴を知り、適切な看護の方法を理解している。 予防接種をはじめとする子どもの病気の予防方法について理解している。 家庭など、子どもの生活のなかで起こりうる事故の特徴を知り、適切な応急処置の方法を理解している。 子どもが自衛を体験する活動などを通して、家庭や保育施設における安全性についての課題を見出し、子どもを危険から守るための具体的な方法を考察することができる。 SDGsの目標の観点から、現代の子どもの健康課題について考察し、自分何ができるかなど、考えをまとめたり発表したりすることができる。 	●	●	●	
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの福祉について課題を見出し、その解決に向けて考察し、工夫する。 障がいのある若者や虐待、困難の多いなど、多様な事情・背景をもつ家庭で子どもが十分な保育サービスを受けるために必要な施策を考える。 子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康と豊かな生活の実現のために果たす役割や意義を理解する。 近年の少子化、高齢化の影響で、子どもや子ども文化を取り巻く環境に変化が起きていることを知り、それに伴う課題を理解する。 	子どもの文化の意義	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが自衛を体験する活動などを通して、家庭や保育施設における安全性についての課題を見出し、子どもを危険から守るための具体的な方法を考察することができる。 SDGsの目標の観点から、現代の子どもの健康課題について考察し、自分何ができるかなど、考えをまとめたり発表したりすることができる。 	●	●	●	8
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの福祉について課題を見出し、その解決に向けて考察し、工夫する。 障がいのある若者や虐待、困難の多いなど、多様な事情・背景をもつ家庭で子どもが十分な保育サービスを受けるために必要な施策を考える。 子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康と豊かな生活の実現のために果たす役割や意義を理解する。 近年の少子化、高齢化の影響で、子どもや子ども文化を取り巻く環境に変化が起きていることを知り、それに伴う課題を理解する。 	子どもの健康と安全	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの健康が発達や生活環境など多様な要因に影響を受けやすく、健康を守るための保育者の役割が重要であることを理解している。 子どもの病気の特徴を知り、適切な看護の方法を理解している。 予防接種をはじめとする子どもの病気の予防方法について理解している。 家庭など、子どもの生活のなかで起こりうる事故の特徴を知り、適切な応急処置の方法を理解している。 子どもが自衛を体験する活動などを通して、家庭や保育施設における安全性についての課題を見出し、子どもを危険から守るための具体的な方法を考察することができる。 SDGsの目標の観点から、現代の子どもの健康課題について考察し、自分何ができるかなど、考えをまとめたり発表したりすることができる。 	●	●	●	
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの福祉について課題を見出し、その解決に向けて考察し、工夫する。 障がいのある若者や虐待、困難の多いなど、多様な事情・背景をもつ家庭で子どもが十分な保育サービスを受けるために必要な施策を考える。 子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康と豊かな生活の実現のために果たす役割や意義を理解する。 近年の少子化、高齢化の影響で、子どもや子ども文化を取り巻く環境に変化が起きていることを知り、それに伴う課題を理解する。 	子どもの健康と生活	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣を題材にした絵本を選ぶ活動などを通じ、生活習慣の習得を促すために、保育者としての具体的なかわり方を考察し、工夫することができる。 	○	○	○	
<ul style="list-style-type: none"> 子どもの福祉について課題を見出し、その解決に向けて考察し、工夫する。 障がいのある若者や虐待、困難の多いなど、多様な事情・背景をもつ家庭で子どもが十分な保育サービスを受けるために必要な施策を考える。 子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康と豊かな生活の実現のために果たす役割や意義を理解する。 近年の少子化、高齢化の影響で、子どもや子ども文化を取り巻く環境に変化が起きていることを知り、それに伴う課題を理解する。 	目的に合った遊びを考えよう	<ul style="list-style-type: none"> 月齢・年齢ごとの子どもの遊びの特徴を理解した上で、心身の発達を促すために、関心や興味をもち、発表することができる。 自分が保育者になることを想像しながら、子どもたちが楽しめるように積極的に取り組もうとしている。 保育施設で行っている遊びに関心をもち、自分で情報を収集しようとしている。 これまで学習してきた内容を振り返り、保育にかかわる内容をまとめることができる。 子どもや保育について、学習前後の自身の考えの変化などをまとめることができる。 各章で提示されたSDGsの目標を達成するために、自分自身や社会はどのようなことができるか、話し合ったり、発表したりすることができる。 これまで学習してきた内容を踏まえ、将来自分がどのような形で子どもにかかわっていくかをイメージしようとしている。 	●	●	●	70	
<ul style="list-style-type: none"> 子どもの福祉について課題を見出し、その解決に向けて考察し、工夫する。 障がいのある若者や虐待、困難の多いなど、多様な事情・背景をもつ家庭で子どもが十分な保育サービスを受けるために必要な施策を考える。 子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康と豊かな生活の実現のために果たす役割や意義を理解する。 近年の少子化、高齢化の影響で、子どもや子ども文化を取り巻く環境に変化が起きていることを知り、それに伴う課題を理解する。 	保育の学習を振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"> 月齢・年齢ごとの子どもの遊びの特徴を理解した上で、心身の発達を促すために、関心や興味をもち、発表することができる。 自分が保育者になることを想像しながら、子どもたちが楽しめるように積極的に取り組もうとしている。 保育施設で行っている遊びに関心をもち、自分で情報を収集しようとしている。 これまで学習してきた内容を振り返り、保育にかかわる内容をまとめることができる。 子どもや保育について、学習前後の自身の考えの変化などをまとめることができる。 各章で提示されたSDGsの目標を達成するために、自分自身や社会はどのようなことができるか、話し合ったり、発表したりすることができる。 これまで学習してきた内容を踏まえ、将来自分がどのような形で子どもにかかわっていくかをイメージしようとしている。 	●	●	●		
<ul style="list-style-type: none"> 子どもの福祉について課題を見出し、その解決に向けて考察し、工夫する。 障がいのある若者や虐待、困難の多いなど、多様な事情・背景をもつ家庭で子どもが十分な保育サービスを受けるために必要な施策を考える。 子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康と豊かな生活の実現のために果たす役割や意義を理解する。 近年の少子化、高齢化の影響で、子どもや子ども文化を取り巻く環境に変化が起きていることを知り、それに伴う課題を理解する。 	定期考査			○	○	○	